氏名：　大戸　美也子　（OHTO Miyako）
所属：　教育事業部（アップリカ寄附講座）
学位：　1965　家政学修士、1975　Ｍ．ｅｄ．
職名：　教授
専門分野：　幼児教育実践研究、比較幼児教育史、比較保育学
E-mail：　oto.miyako@ocha.ac.jp

◆研究キーワード　／　Keywords

比較保育／親参加活動／保育ドキュメント
Comparative Study of Early Childhood Care & Ed. ／ Parent Involvement Activities ／
Documents in the Activities of Child Care & Ed.

◆主要業績　　総数（４）件

・子どもの健全育成における児童福祉施設の役割に関する調査研究 - 総合施設における取り組みの動向と今後の課題（財団法人こども未来財団　平成 18 年度児童関連サービス調査研究等事業報告書　平成 19 年 4 月発行、分担研究員として東日本地区を担当）
・2 歳児の発達と学び - 排泄行為の自立形成期における支援の指標を探る（日本保育学会第 60 回大会発表論文集 ,pp.684 － 689）
・2 歳児の発達と学び（「幼児の教育」第 106 巻第 9 号）
・親参加型子育て支援活動の実態調査と担当者の専門性に関する研究（財団法人こども未来財団　平成 19 年度児童関連サービス調査研究等事業報告書　平成 20 年 2 月発行、主任研究員として研究を統括するとともに 2 つのドキュメントを作成）

◆研究内容　／　Research Pursuits

2007 年度、3 つの課題について研究をすすめた。
（1）乳幼児の保育･教育に関する 3 種類〈幼稚園･保育所･センター）の施設において、親の養育力を高める活動実践を国内から 13 事例を取り上げ、活動事例集を作成。併せて、親の養育力をエンパワーする活動を展開する担当者の専門性についても分析する。
（2）0 － 5 歳児の発達を見通したカリキュラム研究の一環として、保育所 1 歳児クラスの幼児を対象にオムツからパンツの移行過程について実態を調査し、排泄行為の自立形成の支援に関する指標を明らかにする。
（3）ドイツにおける 0 － 5 歳児の発達を見通したカリキュラムの基本概念である Bildung に基づく保育の実態を明らかにするために、10 月と 3 月の 2 度 Muchich 市及び Frankfurt 市の保育現場 10 ヶ所を訪れ調査を実施。

◆教育内容　／　Educational Pursuits

2007 年度、3 科目について以下の教育活動を行った。
「保育臨床演習Ⅰ」では、東京都8区及び周辺2市における『子育て支援活動』の実態調査を行い、サービスの種類、特に力を入れている行政サービスを検討しサービスの量と質について比較検討した。
「保育実践研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」では、写真、映画等の映像による幼児及び保育のさまざまなタイプのドキュメントを観賞し、その後に履修生の勤務先の園の構造、登園時の様子、園庭での遊び等について写真を活用してドキュメント作りを実施した。また、後期は各自テーマ（「活動への取り組みに時差の生じる子ども」、「保護者のサークル活動」）を設定して、ドキュメントを作成した。
「比較保育学」では、イタリアのリッジョ・エミリア市とピストイア市、ドイツのミュンヘン市とハール市、フィンランドのヘルシンキ市とタンペレ市の幼児保育の実践に焦点をあて、最新の映像及び最新の情報を持つ専門家をゲストとして招き特別講義も交えて、変わりつつある乳幼児保育の実際の理解を深めた。

◆研究計画

2008 年度は、以下の課題について更に研究をすすめる方針である。
(1)「親の養育力」を向上させる保育者の専門性について、2007 年度の実態調査の資料源を掘り下げ、多様な親との保育者の対応の在り方を探る。
(2) ドイツにおける幼年期の教育概念 Bildung 及び Buildungsnetzwerk について理解を深め、わが国の 0 － 5 歳の発達を見通したカリキュラム作りに生かす。

◆メッセージ

「チャイルドケア　アンド　エデュケイション講座～子どもの幸せ学探求」は、現職保育者をはじめ乳幼児保育に関心を持つ社会人や学生を対象としています。今年度は、10 年ぶりに幼稚園教育要領や保育所保育指針が改定され、その周知の年です。幼稚園と保育所、あるいは幼児教育と学校教育の間にあった壁を見直し限りなく低くしようとする方向、また保護者との新たな関係性を作ろうという保育現場の動向等々、新しい時代の保育の専門性の開発が問われています。新しい知見に学び保育の可能性を拓こうという意欲を持った方々を応援します。